

令和6年第1回下仁田町議会定例会会議録第1号(5日)

招集年月日	令和6年3月5日								
招集の場所	下仁田町議会議場								
開閉会日時	開会	令和6年3月5日午前10時00分				議長	佐藤博		
及び宣言	閉会	令和6年3月 日 午 時 分				議長			
議員出席状況	議席番号	氏名	応招 不応招 別	出欠席 別	議席番号	氏名	応招 不応招 別	出欠席 別	
応招10名	1	並木一夫	○	○	6	木暮弘元	○	○	
不応招0名	2	小井土光弘	○	○	7	岩崎正春	○	○	
出席10名	3	大手博幸	○	○	8	佐藤博	○	○	
欠席0名	4	佐々木信也	○	○	9	千野榮治	○	○	
欠員0名	5	岡田邦敏	○	○	10	堀口博志	○	○	
【凡例】 ○応招・出席を示す ×欠席・不応招を示す									
会議録署名議員	10番	堀口博志	1番	並木一夫					
職務のため議場に出席したものの氏名	事務局長	佐藤正明			書記	佐藤里奈			
地方自治法 第121条に より説明のため出席した者の氏名	町長	原秀男			福祉課長	鈴木昌吾			
	教育長	里見立夫			保健課長	今井美和			
	総務課長	岡野均			農林課長	佐藤圭司			
	企画課長	神戸領栄			商工観光課長	林光一			
	住民税務課長	下山光一			建設水道課長	荻野文昭			
	会計課長	岡野宏巳			教育課長	竹内誠			

議 事 日 程 別紙のとおり

会 議 に 付 し た 議 件

- 1 会議録署名議員の指名
- 2 会期の決定
町長挨拶
- 3 一般質問

会 議 の 経 過

開 会 令和6年3月5日 午前10時00分

○議長 佐藤博 議員の出席が定足数に達しておりますので、ただいまから令和6年第1回下仁田町議会定例会を開会し、ただちに本日の会議を開きます。

○議長 佐藤博 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第126条の規定によって、10番 堀口博志君と、1番 並木一夫君を指名いたします。

○議長 佐藤博 続いて、日程第2、会期の決定を議題といたします。
本定例会の会期については、さきの議会運営委員会で本会議の運営等について協議がされておりますので、その結果について報告を求めます。議会運営委員長

(堀口博志議会運営委員長 登壇)

○議会運営委員長 堀口博志 おはようございます。

議長の指名がございましたので、議会運営委員長報告を申し上げます。

去る2月27日午前10時から303委員会室において、議会運営委員会を開催し、本定例会の会期、日程及び議案の取扱い等の議会運営に関する事項について協議をいたしましたので、その経過と結果についてご報告申し上げます。

まず、会期につきましては、本日から3月19日までの15日間とし、審議日程につきましては、お手元に配付されている日程表のとおりであります。

本日は、会議録署名議員の指名、会期の決定の後、町長のご挨拶をいただ

きます。その後、一般質問を岩崎正春議員が行います。

また、一般質問終了後から6日にかけて、全員協議会を開催し、本定例会に提案されております第2号議案から第25号議案の細部にわたる説明をしていただきます。

7日は、引き続き全員協議会を開催する場合は終了後、6日に全員協議会が終了した場合は午前10時より、本会議を開催していただき、第13号議案まで上程、提案者の説明、質疑、討論、採決を行います。次に、第14号議案から第19号議案までの補正予算及び第20号議案から第25号議案までの当初予算は一括上程し、説明、質疑の後、全予算議案を予算決算特別委員会に付託し、審査をお願いすることに決しました。

8日は、午前10時から予算決算特別委員会を開催していただきます。

9日及び10日は、休日につき休会といたします。

11日は、午前10時から予算決算特別委員会を開催していただきます。

12日は、午前10時から社会経済常任委員会協議会を開催していただきます。

13日は、休会といたします。

14日は、午前10時から総務常任委員会協議会を開催していただきます。

15日は、委員会予備日といたします。

16日及び17日は、休日につき休会といたします。

18日は、委員会予備日といたします。

19日最終日は、午前10時より本会議を開き、委員長から委員会審査の報告を受けた後、第14号議案から第25号議案に対しての討論、採決を行い、全日程を終了する予定です。

以上、この会期、日程等にご賛同を賜り、円滑な議会運営ができますよう各位のご協力をお願い申し上げて、委員長報告といたします。

○議長 佐藤博 お諮りいたします。

本定例会の会期は、議会運営委員長の報告のとおり、お手元に配付の日程表により、本日から3月19日までの15日間にしたいと思います。これにご異議ございませんか。

(「異議なし」の声あり)

○議長 佐藤博 異議なしと認めます。

したがって、本定例会の会期は、本日から3月19日までの15日間と決定いたしました。

○議長 佐藤博 続いて、町長から定例会招集の挨拶を願います。町長
(原秀男町長 登壇)

○町長 原秀男 皆様、おはようございます。

令和6年第1回下仁田町議会定例会の開会に当たり、ご指名をいただきましたので、一言ご挨拶を申し上げます。

野山の草花も春本番を告げる季節を迎え、議員の皆様におかれましては、定例会にご参集いただき、誠にありがとうございます。

早いもので、令和5年度の最後の定例会となりました。本議会では、次年度の町政運営の根幹をなす当初予算をはじめ、幅広い分野にわたる条例改正などについてご審議いただきたいとするものです。

各位におかれましては、大所高所より忌憚なきご意見を賜りたく、お願い申し上げます。

まず、第2号議案では、任期満了に伴い、固定資産評価審査委員会委員の選任についてご提案いたします。

続く第3号議案では、国の法改正に連動し、会計年度任用職員の給与及び費用弁償に関する条例の一部改正をご審議いただきたいとするものです。

第4号議案では、国の法改正に伴う町手数料条例の一部改正、第5号議案では、安定的な国保運営を目的とした国民健康保険税条例の一部改正、第6号議案では、ひとり親世帯の負担軽減のための福祉医療費の支給に関する条例の一部改正、第7号議案では、法改正並びに基準見直しに係る介護保険条例の一部改正を、それぞれご提案いたします。

さらに、第8号議案では、県の制度改正に伴う小口資金融資促進条例の一部改正について、第9号議案は、議員報酬の見直しに係る特別職の職員で非常勤のものの諸給与支給条例の一部改正をご提案します。

続いて、第10号議案では、本年度竣工いたしました馬山生活センターの設置及び管理に関する条例の制定を提案するものです。

さらに、第11号議案では、過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法を根拠といたします持続的発展計画の変更についてご承認を求めるものです。

また、第12号議案では、起業支援テレワークオフィスの指定管理者の指定について、第13号議案では、町道路線の変更について、それぞれ提案するものです。

続いて、予算関連でございますが、第14号議案から第19号議案は、一般会計並びに各特別会計における令和5年度補正予算をご審議いただきたく

存じます。

そして、第20号議案から第25号議案は、一般会計並びに各特別会計における令和6年度当初予算についてご提案いたします。

いずれの案件も地域の住民生活に直結する大切な案件でありますので、慎重審議の上ご議決いただきたく、お願いするものです。

以上、令和6年第1回議会定例会開会に当たりましての挨拶といたします。本日より大変お世話になります。

○議長 佐藤博 次に、日程第3、一般質問を行います。

通告書に従いまして質問を許します。岩崎正春君

(岩崎正春議員 一般質問席へ)

○議長 佐藤博 なお、岩崎君から一般質問に関する資料の配付の依頼がありましたので、これを許可します。資料の配付を願います。

(資料配付)

○7番 岩崎正春 ただいま、議席番号7番、岩崎正春、一般通告書に従いまして質問いたします。議長のお許しをいただきましたので、よろしく願いいたします。

なお、最初通告書で示した順番と若干順番を変えさせていただきます。また、質疑は答弁内容により多少再質問もあるかと思っておりますけれども、できる範囲でご回答いただければと思います。よろしく願いいたします。

まず最初に、少子化、高齢化、人口減少下での町政の取組について、来年度予算、つまり令和6年度予算で特に留意した点、重点施策をお願いいたします。

○議長 佐藤博 町長

○町長 原秀男 お答えいたします。ちょっと長くなりますから、準備をください。

少子化対策としては、結婚から子育てまで切れ目なく支援する観点から、今まで実施してきました事業の継続の予算を編成しました。

まず、結婚施策に対しては、男女の出会いの場を提供する結婚イベント委託事業、結婚された方に対しては結婚祝金事業、出産に係る支援策としましては不妊、不育治療費助成金事業また無痛分娩助成金事業、子育て支援に係る事業としましては出産祝金、そして満1歳から満5歳までの誕生日を迎えた子どもに対し1人につき毎年10万円を支給する育児支援金、保育事業に関しては保育園児に対する主食費、副食費無料化事業、小学校、中学校の入学時に10万円を支給する入学祝金、児童生徒に係る経費の支援策として、

学校給食費無料化事業です。

また、子供に係る医療費対策としては、高校生までの医療費無料化事業を引き続き実施するとともに、新年度からは、ひとり親家庭の課税世帯に対して医療費と食事費を助成するための予算計上をさせていただいており、育児に係る費用を少しでも町が手助けし、子育てしやすい環境づくりを継続したいと考えております。

また次に、定住施策としては、今年度に引き続き、町外から移住された方に対しては移住促進奨励金事業、定住を目的に町内に住宅を新築した方に対しては定住促進奨励金を支給するとともに、新築するに当たりぐんま優良木材を使用した場合は、下仁田町ぐんまの木で家づくり支援事業で建築費用の一部を補助したいと考えております。

ざっとこんなところであります。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 ありがとうございます。

なお、続いて人口動態のほうを先に、町長に対する質問の前に、現在の人口構成比等を教えていただければと思います。よろしくお願いします。

○議長 佐藤博 住民税務課長

○住民税務課長 下山光一 お答えいたします。

人口数につきましては、住民基本台帳法による変更と国勢調査を基にしました出生、死亡、転入、転出などの増減を加味した移動人口がございます。各種統計の基になっております令和2年度の国勢調査人口を基準に推計した人口についてお答えをいたします。

同じ基準日としまして、令和5年10月1日の人口となりますが、ゼロ歳児から6歳未満児は48名減の68人、構成として0.16%、6歳以上15歳未満につきましては31名減の205人で3.48%、15歳以上65歳未満につきましては460名減の2,424名で41.22%、65歳以上につきましては156名減の3,184名で54.14%、総計としまして、令和2年10月1日から3年間で695名減の5,881名となっております。

なお、住民基本台帳法による65歳以上の人口につきましては3,360名、人口総数6,363人に対しまして52.8%の比率となっております。

以上でございます。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 ありがとうございます。

今、課長が答弁してくれたように、町長が就任した平成28年12月の人口は7,903人で、現在、令和6年2月現在で6,300人です。1,603人減で、年間にすると220人以上が減少している計算になります。

また、少子化の点で言いますと、9月の定例会でも同じ質問をして教育課長から答弁いただいた内容によりますと、令和4年度の小学校入学者数が17名で、前年から比べると5.8%減、令和7年度が12名で、前年度から比べると6.6%減、令和8年度が21名で2.2%の減、令和9年度が12名で6.1%、令和10年度が13名で、小中学校を含めて156名で8.2%減ということになって、平均すると5.5%以上、子供の少子化の減少率が高いということで。これは下仁田町に限ったことではなくて、全国的に減少傾向にあるかとは思いますが、特に下仁田町の場合は減少のスピードが速いというふうに思います。

今、答弁をいただいた中からざっと酌み取ると、人口の中での高齢者比率が52.8%で、これも毎年3.3%人口全体で減少しているということで、この数字を見ると、今町長がいろいろ策について答弁していただいたんですけども、これらの数字を見ると、やっぱり人口減少ということが非常に一番の大きな課題だということを私は認識しております。その中に、少子化あるいは高齢化、そういうものが含まれてきているわけです。

ですから、この過去、町長になってからの7年間の当初予算における町長の答弁をざっと見させていただいたんですけども、いろんな手段というんですかね、施策は盛りだくさんに述べられているんですけども、やっぱり少子化に対する危機というんですか、危機感というんですかね、そういうものはやっぱり町の施策を考えるあるいは予算づけするに当たっての目的というのがもうちょっとはっきりしてもらったほうが、全体として職員も含めて、全体としてどこに予算のめり張りをつけるかということの要点ではやりやすいのではないかと思います。ずっと7年間を見てもみると、いろんな施策は模されているんですけども、施策というのは一つの手段ですので、目的をはっきりさせるということが私としては望むところなんですけれども。町長、その辺はどうでしょうかね。通告外だけでもね。

○議長 佐藤博 町長

○町長 原秀男 まあ、通告はともかく。

手段と方法ということなんですけれども、なかなか、ちょっと7年前、8年前を振り返ってみて、国が感覚的に少子化というのが本当に叫ばれている中でしか取ってこなかった。まだ国も甘いと思いますけれども、そういった

中で、火がついたところからやるしかないということで、今始めているわけですが、そういう意味では今申した方法で進めていくしかないかなとは思っています。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 この人口減少というのは、せんだっての新聞でも、10年前倒しで減少の幅が大きくなっているという新聞報道があったばかりですから、下仁田町もその例外ではもちろんないわけですが、大体この社人研の人口予測というのは、大概の場合、下振れはあっても上振れはなかなか起きないということで、全国的にそういう傾向にあるということは実態だと思います。

しかし、そういう中で一生懸命検討して、その社人研の予想を覆す自治体もあるということも事実です。今日お配りしたその資料なんですけれども、これは茨城県境町と長野県南箕輪村です。

これはもう、もちろん町長をはじめ皆さんもよくご存じだと思うんですが、境町は、令和4年度に59億何千万かのふるさと納税を集めたという自治体です。もちろん立地条件が違いますから、それをまねするとかというのではないんですけれども、この境町にしてみても、最初からこんなにふるさと納税を集められたわけではなくて、例にたがわず、2014年、10年前は負債が172億の借金があって、人口減少、高齢化も進む財政破綻寸前の状況の町だったというふうに聞いております。それで、2014年度のふるさと納税が6万5,000円だったものが、現町長が就任して以来、1年目で3,257万、今言ったように、2022年度は59億5,348万円になったということです。これは本当にすごい数字だと思います。

一方、南箕輪村は、長野県の真ん中に位置している村で、伊那市が真ん中にある南側と北側に飛び地があるという条件の村です。平成の大合併でも伊那市はすぐ近くの箕輪町と合併しなかった村で、現在1万6,000人の村に、保育園児が700人以上いるという、ちょっと群馬県で言えば、玉村の高齢化率と似ているかなというふうに思っております。東京都でさえ22.9%ですから、この数字はやっぱり何らかの仕掛けというんですかね、多分そういうものがあるんだと思います。

それで、これの基礎資料にあるように、両町村の特徴として、やっぱり下仁田町とは違って平地はやっぱりあるというんですかね、生まれているかなと思いますけれども、それでも人口が少なかった村がもう右肩上がりに人口を増やしているということで、いずれ議会でもこういった町村を研究する必

要があるかなというふうに、私は思っております。

私の感じでは、やっぱり少子化のために保育園児あるいは子育て住宅支援にかなり特化して予算をつぎ込んでいるという印象がありました。町とは条件が違うということで、もちろん同じとは言えないんですけども、下仁田町も欠点ばかり見てもよくならないので、よい点、強みを生かして欲しいと思います。

財政的にも、下仁田町は自主財源といわれている地方税交付、寄附金、繰入金、繰越金、諸収入の比率が23.47%で、その中で町税と言われる固定資産税、軽自動車税、ましてはここで入湯税が15.14%で、財政的にはやっぱり厳しい条件ですから、身の振り方もなかなか難しいと思います。

その中で、やっぱりこのふるさと納税制度というのは活用しない手はないと思いますので、下仁田町も8,000万以上のふるさと納税を集めていますので、これらのふるさと納税の希望者やリピーターを増やす必要があると思いますけれども、その辺の考え、施策をどのように考えていますか、よろしくをお願いします。

○議長 佐藤博 企画課長

○町長 原秀男 その前に。

○議長 佐藤博 その前に、町長

○町長 原秀男 今もろもろ、財政問題もちょっと今述べられたんですけども、財政の話、今まで私が、財調の話ですが、私が就任したときには11億8,000万だったんですよ。現在、約21億5,000万ぐらいということで、できるだけもらったお金を大事に、切り詰めながら増やしてきたと。そういう意味では、まあ財政的には収入は少ないですけども、財力は上げていると、ちょっとその辺話をしておきたいと思います。よろしくお願いたします。

○議長 佐藤博 企画課長

○企画課長 神戸領栄 お答えいたします。

ふるさと納税に関する件でございますが、令和4年度の下仁田町ふるさと応援寄附金が5,327件の寄附件数で、寄附金額が8,000万円ほどでございます。令和3年度から1,861件、1,660万円ほど伸びておりますが、令和5年度も8,100万円を超える見込みということになっております。

現在、町内の事業者の掘り起こしなどを行いまして、50以上の事業者と300を超える品目をそろえまして、ポータルサイト6つのサイトで展開を

しておるところでございますが、ふるさと納税に関しましては、全国的に見ますと、ふるさと納税の利用者は増加傾向にございます。ですが、海鮮や肉、ビールなどの返礼品が充実しまして、潤沢な資金を持つ自治体に集中していると言われる中、当町でも新規食品の開拓、事業者の掘り起こしなども実施をしているというところでございますが、ご指摘のとおり、ふるさと納税を伸ばせる要因はまだあるというふうには思います。

令和4年度のリピーター率は全体で25%、回答によりばらつきはございますが、多いところでは45%のリピーター率となっておりまして、リピーターの確保は有効な対策だというふうに思います。

現在も実施はしておりますが、町の情報をダイレクトメールなどで直接に送るなど、訴求力を高める取組を実施したいというふうに思います。また、下仁田町の魅力を発信しながら、町の飲食店などと連携しながら取組をすることは可能かというふうに思います。

以上です。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 飲食店さんや商工会さんと連携しながら、新しい商品をぜひ開発していただきたいと思いますけれども。

その中で、昨今テレビの影響もあるかと思いますが、下仁田の飲食店さんにかなりの来客があり、土日にかけては駐車する場所がないくらいにぎわっております。こういったテレビによる影響というのは、ややもすると一過性のリスクがあります。そういった人気を持続させるための企画というのも、併せて必要かなと思っております。

私は飲食店を営んでいないので無責任な言い方になるかもしれませんが、例えば、すき焼きとかあるいはカツ丼とか、いろんな下仁田町にはおいしい料理がありますから、そういったものをまとめてクーポン券にして、ふるさと納税の返礼品に使うとかという、そういうやり方というのは検討したかあるいは考えているか、どうでしょうかね。

○議長 佐藤博 企画課長

○企画課長 神戸領栄 以前にも、町の飲食店などと連携をして取り組むというお話のほうはさせていただいてはおりますが、そういったクーポン券というところの施策にはまだ至っていないというところでございます。

ふるさと納税の返礼品のみならず、その仕組みの構築を含めまして、関係団体と検討は進めていきたいというふうに思います。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 これは役場の皆さんがやるというわけにはいかないので、その今言われたような関係団体に働きかけをしていただいて、そういったものが返礼品として取り扱えるように、私は期待しております。そうすれば、物を送っただけではなくて、今度は来町していただけるというメリットがありますので。いろいろ難しい点もあるかと思いますが、一つご尽力をいただければと思っております。

続きまして、このままでは将来人口が3,000人になるぐらいは意外と早くやってくるのではないかというふうに危惧しております。それで、様々な施策により食い止めあるいは下振れする現象をなるべく緩やかにする努力をしつつ、一方では、3,000人あるいは2,000人になっても行政機構がきちんと働くような役場の体制にする必要があると思うんですけれども、その辺は、機構改革等を含めてその辺の考えはどうでしょうか。

○議長 佐藤博 総務課長

○総務課長 岡野均 お答えします。

町のほうでは、職員の定数管理等を行う上で定員管理計画というのを策定してございます。これにつきましては近隣、国が実施します定数に当たる国の定員管理調査等を参考に、国が発表します類似団体別の職員数の状況調査というのがございます。これを見ますと、やはり人口規模に比例した部分と、あとは自治体が持つ面積であるとか、あとは就労人口の構成率等々を参考に、今後下仁田町がその人口ビジョン等による推計値に、例えば2040年、何人になるといった場合に、今あるその類似団体の人数を参考に、今後もその定員管理計画等により職員の目標数の設定をしていくような形にはなるかと思えます。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 ちょっと無理に次の質問とかぶるような内容に向けてしまって、すみませんね。

今ちょっと課長も触れられたように、定員管理と今年度の新規職員採用についてお尋ねいたします。

これらはもちろん、いろんな業務が増えているということは折に触れて聞いておりますが、じゃ、必要としている人のどのくらい足りないかという労働調査、事務量調査というのは行っているのでしょうか。

○議長 佐藤博 総務課長

○総務課長 岡野均 お答えします。

現在、町のほうでは、行政の労働力調査というのは実施はしておりません。

職員の事務量等を把握する手段としましては、毎月、職員から提出されます時間外勤務の報告書であるとか、職員の年次有給休暇等の取得の状況を把握して、仕事の状況等を把握しているというのが現状でございます。

また、年度末人事等で参考とするために、毎年職員から事項申出書というのを提出していただいております。それにより、職員個人の業務内容または仕事量、そしてそれに係る係ごとの業務量等を把握している状況でございます。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 これは9月の一般質問でも課長のほうから答弁していただいております。今、今年採用する職員数は幾人ですかね。

○議長 佐藤博 総務課長

○総務課長 岡野均 お答えします。

今年採用する人数は2名でございます。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 今、課長が答弁いただいた定員管理計画によりますと、ここにちょっと載っておりますが、今年度はこの計画によると3名というような計画が載っていたかと思えますけれども、今年入った方が40年から45年勤務されるわけです。それで、さきの人口減少の動態調査等を見ると、この今年入った職員さんが定年を迎えるときは、令和の例がずっと続くとしたら、もうかなり下仁田の人口は2,000人を切っているのではないかということが危惧されるわけです。

それで、今のままその採用を続けると、職員数は100名はなかなか下回らないということが予想されるわけですが、これはそういう先の将来予測というのは特段管理していないわけですか。

○議長 佐藤博 総務課長

○総務課長 岡野均 お答えします。

定員管理計画につきましては、やはり10年という形の長い中でスパンで計画を練っていきます。先ほどご答弁をさせていただいたんですけれども、今後下仁田町の人口減少、人口の推移を見ながら、そのときの、また10年後には何人ぐらいが必要だというのも、その件は設定します。それとともに、やはり機構改革等を、係の統合であるとか課の統合とも併せながら、人員の目標設定等が必要かとは思っております。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 ありがとうございます。なかなかこういった人事のことについて

て質問するのは、質問しづらいんですけども、そうかといって、やっぱり将来予測を考えると、将来の心配をしなければならない、避けて通れないと思いますので、あえて、ちょっと憎まれるかもしれませんが、その辺の採用に対しても、また時期が来れば2年に一度採用するとか、まあそういった方策もあると思いますので、予断を許さずに施策を、採用に当たっては考慮していただきたいと思います。

続きまして、高齢者対策として、アフターコロナにおける予防対策ということで、コロナワクチンの今後の負担とかやり方、あるいは今実施されている肺炎球菌、带状疱疹など、高齢者がかかりやすいと言われている予防接種等のことについてのお尋ねをいたします。

○議長 佐藤博 保健課長

○保健課長 今井美和 お答えいたします。

まず、新型コロナワクチンの接種についてですが、令和5年度末で特例臨時接種が終了し、令和6年度以降は予防接種法のB類疾病に位置づけられて、同法に基づく定期接種として実施することが示されました。

定期接種の対象者は、65歳以上の者もしくは60歳以上65歳未満の者であって心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能障害またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能障害を有する者となります。

今後の接種費用について現時点で国が示すものは、費用が7,000円として積算しておりまして、低所得者に対しては接種費用を無料とすること、それ以外の方の自己負担額については各自治体で検討することになっております。

接種時期は、秋から冬にかけての時期となり、季節性インフルエンザとほぼ同様の接種体制となります。

コロナワクチンについての具体的な詳細は未定の部分もありますが、富岡市甘楽郡医師会のご指導をいただきながら、自己負担額については管内の市町村と同調した金額をお示ししていきたいと予定しております。

また次に、肺炎球菌のワクチンですが、肺炎の予防効果と医療費の抑制効果が高いワクチンになっております。こちらは、当町では平成23年度から接種を開始しています。平成26年度に23価ワクチンが定期接種のワクチンと位置づけられまして、希望する対象者に、継続して助成措置をしております。現時点での接種費用は7,200円で、そのうちの5,200円を町のほうから助成し、高齢者の負担額は2,000円となっております。自己負担額について、管内市町村と統一した金額になっております。

最後に、带状疱疹のワクチン接種についてですが、今年度6月から接種費用の助成を開始しました。対象者は50歳以上の希望者で、1回当たり3,000円の助成を行っています。しかし、接種費用が高額であることから、接種をためらう声も多く聞かれたため、接種を希望する方の負担軽減を図るため、令和6年度予算については助成額の増額を計上させていただきましたので、この後のご審議をいただければと存じます。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 今の答弁ちょっともう一度確認したいんですけども、この3,000円という金額なんですけれども、生ワクチンともう一つのワクチンがある、これも同じ金額ということですか。

○議長 佐藤博 保健課長

○保健課長 今井美和 今年度についてはおっしゃるとおりで、生ワクチン、不活化ワクチン、両方1回につき3,000円の助成をさせていただいております。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 生ワクチンが大体六、七千円で、不活化ワクチンというのがかなり金額がかかるらしいんですよ。効果がどうなのか私もよく分からないんですけども。

私が心配するのが、これから高齢者がだんだん独り暮らしの高齢者が増えてきて、そういった病気が重篤になると、自宅で倒れてちょっと不慮のいろいろな心配がありますので、ぜひこの辺はお年寄り、高齢者向けのその施策というのは、なるべくこういうものを実施するとすれば手厚く早くお願いしたいと思います。

続きまして、集落高齢者支援タクシー利用券並びに高齢者おでかけ支援タクシーの利用券についてお尋ねいたします。よろしくお願いします。

○議長 佐藤博 福祉課長

○福祉課長 鈴木昌吾 お答えいたします。

新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月から感染症5類に位置づけられました。おでかけ支援タクシー利用券交付事業は、新型コロナウイルス感染ワクチン接種会場への移動手段としての位置づけで行った事業であり、本来の目的が終了したものでございます。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 はい、分かりました。

令和4年度に新型コロナ臨時交付金を活用した事業で、70歳以上の町営

バス等の公共交通機関を利用できない方へ、高齢者おでかけタクシー利用券を1人6回分の交付を実施してきたが、好評だったため、今年度については町の一般財源より引き続き実施しておりますという答弁をしていただきました。この議会でね、一般質問で。

好評だったのをやめる理由というかな、好評なんだから続けてほしいなと思うんだけど、それにあるいは変わるものがあるのかどうか、その辺をよろしく願いいたします。

○議長 佐藤博 福祉課長

○福祉課長 鈴木昌吾 町では、町営バスを運行しております。今まで町営バス路線内でおでかけ支援タクシー利用券のみご利用の方は、町営バスを利用させていただきたいと存じます。

従来どおり、バス停より離れた集落にお住まいの方が利用できる、集落高齢者等タクシー利用券事業は、今年度予算240万円から令和6年度は300万円に増額計上させていただき、拡充したいと考えております。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 高齢者になると、私は、この出かけるということが一つの、そのいろんな意味で、運動あるいは認知能力の維持とかそういう点で、出かけてみるということも大切なことだと思います。

それで、おでかけタクシーというのは結構、枚数は6回と少なかったんですけども、好評で、前年度も予算オーバーを、300万円ぐらいの予算だったのをオーバーしているんですよね。それで、これ300万円に増額したということなんですけれども、5年度の予算というか、去年度のだったかな、決算では、両方合わせて、高齢者支援タクシーとおでかけ支援タクシーを含めると、520万ぐらいが使われていると思うんです。だから、そういう意味でいくと、300万というのは増額ではなくて減額にも見えるというのかな。

できるだけ、私はできるだけ高齢者にも出かけてほしいと。出かけていくといっても、大体うちの近所の年寄りを見ると、病院かスーパーなんですよ。どこかへ行くということもあまりないんですけども、その出かけることを躊躇して少なくなると、認知能力とか運動能力もまあちょっと心配されるので、この辺の拡充もぜひお願いしたいと思います。

続いて、地域の活動を支える区長さんをはじめ役員さんも、今までのようなボランティアに頼る時代ではもう何かないような気がします。区長さんや組長さんの報酬の見直しは必要ではないかと思いますが、その辺はど

うでしょうか。

○議長 佐藤博 総務課長

○総務課長 岡野均 お伝えいたします。

区長さんそして組長さん、班長さんの報酬について、まず、区長さんの報酬でございますが、報酬の区分といたしますと3種類ございまして、均等割、世帯割、地域割という3種類の報酬を年額で報酬支給をさせていただいております。その中で、区長さんが受け持つ世帯数に対する報酬である世帯割分を、令和3年度より改定をさせていただきまして、1世帯当たり450円から1,000円に変更をさせていただきました。これにより、総額で161万3,000円ほどの増額をさせていただいております。

また、組長さん、班長さんの報酬につきましても、令和4年度より改定をさせていただきまして、組長さんの報酬につきましても、以前は均等割のみであったものを新たに世帯割を設け、1世帯当たり200円を支給をしてございます。また、班長さんにつきましても、世帯割の報酬を1世帯当たり350円から700円に改定をさせていただいております。これにより、総額約150万円ほど増額をさせていただいております。

また、今後の報酬の改定等につきましても、近隣の状況等も加味しながら考えてやらさせていただければと思います。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 改定してまだ3年ほどしかたっていないのは承知しております。ただ、状況を見ると、下仁田でもかなり地域差があります。馬山、下仁田あるいは小坂、西牧、青倉と。大体役をもうやる人が決まってしまうんですね。15件いても、できる人が3人ぐらいとか。もう頻繁に役がやってくるわけです。区長が終わったなと思うと、今度はその区長三役にせよ組長やるとか、そういう気の毒な、本当に大変な状況が続いていて。これは特定の人に負担が行くということが分かっているから、もうちょっとその手当、これはくれるの手当ぐらいしかないかなと思ったんで、この質問をさせていただきました。状況は年々歳々ちょっと厳しくなる分でもよくなるということは想定できないので、この辺も役所の大きな仕事だと思いますので、よろしくお願いいたします。

それと、子育て支援とその施策についてお尋ねいたします。少子化や高齢化、人口減少というのも、先ほども申し上げましたが、町の将来を担う子供施策は最も優先されるべきだと思いますけれども、特に子育て支援の施策というのがございましたら、よろしくお願いいたします。

○議長 佐藤博 町長

○町長 原秀男 先ほど申したとおりなんですけれども、子育て支援に対して、それと定住支援促進、これは今進めていますけれども、県内35市町村の中でも、今の下仁田の施策は支援額はトップであります。これ以上やれというのならもっとやりますけれども、財政とも相談しながら、さらにできる施策をやっていきたいと思っています。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 今、町長の答弁にあるように、町の施策というのは、本当に県下でも充実した対応だと思っています。しかし、現実として、なかなかその現状は改善できない。そういう点で、やっぱりこれを見ると、お金だけではないんだなというふうに思います。この子育て支援を大事にしていますと言う、同時にそういうお金の手当をしてくださっているわけですから、当然何らかの効果が出てほしいなというふうに思います。

それで、この境町と南箕輪村の役所へ入って私が目にしたのは、総合窓口というのがまずあります。すぐ横に並んで、子育て支援課というのがあって、その総合窓口の裏側、すぐ後ろ側に、下仁田で言えば、かるがも広場みたいなのが設置されています。

これを、役所に来て子供が遊ぶということはそんなに考えられないんですけども、やっぱり町のその姿勢というのか、インパクトというのかな、大事に子育て支援に重点を置いていますよというメッセージ性はあると思うんですね。お金だけではなくて、だからそういう、例えばまちづくり委員会ですか、そこでも公園が欲しいというのは、これ長年の要望なんですけれども、どこへ造るかは別として、子育て支援をしているというのであれば、子供たちが放課後あるいは子守りをしながらすぐ気軽に安全に遊べる場所というのは、当然私は必要かなと思っています。ぜひ、予算づけ等が見つかりましたら、実施していただきたいと思います。

続きまして、下仁田高校また上信電鉄への支援についてお尋ねします。

令和6年度の県立高校の志願者発表では、下仁田高校志願者が20人以下とありました。生徒数の減少により、学校運営も厳しい状況にあります。上信電鉄の存続や町の活性化にもつながる重要な学校ですので、町としても支援を行っていくことは重要なのではないかと思います。生徒の多くは上信電鉄を利用して町外から通う方が大半を占めていますが、上信電鉄の定期券の補助などの支援などはできないでしょうか、よろしくお願いします。

○議長 佐藤博 企画課長

○企画課長 神戸領栄 お答えします。

令和４年度の下仁田高校の生徒のうち、約６０名ほどが上信電鉄を利用して通学しております。高い割合で通学に電鉄を利用しているということが見られます。通学費の公的支援というのは、進学先を検討する上で大変大きな要因になるとは推察されますので、下仁田高校の支援にもつながるというふうには思われます。

一方で、上信電鉄の通学定期券を利用して町外の高校へ通学している生徒が、令和４年度で年間約８０名ほどいらっしゃいます。通学対象駅は七日市以降が多くを占めておりまして、こういった下仁田高校の支援、通学の支援の検討には、町内の高校生の通学支援も検討する必要があると、同時に思われます。

これらのその財源の確保を含めて目的や趣旨を整理しまして、公平な制度の検討が必要であるというふうには思いますが、下仁田高校の運営は群馬県教育委員会でございまして、そことの調整ですとか、その辺の内容も含めまして今後検討というふうには思います。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○７番 岩崎正春 志願者数ですけれども、群馬県のホームページに２月１４日現在だと、６４人の募集に対して志願者が１３名、充足率が２０％です。こういったことも、予算的にはなかなか厳しいものがあると思います。そういうためにも、庁内のいろんな行革を進めて、経費を節減して捻出しながら、こういった手当をすれば、上信電鉄や下仁田高校の存続に何かの影響があるかなということを期待して、こういう質問をさせていただきました。

続いて、その学校給食の提供も一つの例として、高校へ通う生徒の支援策として、環境整備の一環として、学校給食の提供も一つの方策だと考えられます。以前にも質問したことがあります、その後いかがでしょうか。

○議長 佐藤博 教育課長

○教育課長 竹内誠 お答えいたします。

先日、下仁田高校へ照会したところ、在校生数は現在６７名ということでした。当町では現在、学校給食の調理につきまして民間の業者へ業務委託しております。お隣の南牧村からも委託を受けまして、１日約３００食分を調理しております。余力の範囲での追加料理は可能だと思います。

想定される経費や課題等につきましては、調理等の委託料の増額、賄い材料費の増額、運搬の費用、搬入口の改修あるいは衛生管理、配膳などが考えられます。なお、所管は県立高校なので、群馬県教育委員会との協議が必

要になってくるかと思われます。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 9月に質問、町長が9月定例会お休みだったのであれなんですけれども、してあるので、もう何らかのその県との話合いもしたのかなと思っていましたけれども、ちょっとまだらしいので、町長の命がないと動けないみたいなので、一つぜひ検討していただきたいと思っています。

給食、高校生も結構コンビニでお弁当買っているようなふうに見えますね、聞いたわけではないから分かりませんが、健全な食生活を下仁田高校へ通うと担保してもらえるよということも、一つの邪推なしに子供たちの健康を考える点ではいいかなと思っています。

続きまして、最後になりますけれども、成年後見人制度の町の現状について教えていただきたいと思います。これらのまた利用状況について伺いたいと思います。

○議長 佐藤博 福祉課長

○福祉課長 鈴木昌吾 お答えします。

成年後見人制度利用支援事業、利用者は現在1名でございます。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 これは結構お年寄りが増えていくので、財産管理なんかで必要だと思います。今後はその制度の必要性和普及はどのように考えていますか。

○議長 佐藤博 福祉課長

○福祉課長 鈴木昌吾 町はこれまで成年後見人制度の研修を、町内外の福祉、介護、医療機関と実施してまいりました。

このたび、令和6年4月1日から福祉課内に成年後見サポートセンターを開設し、認知症、知的障害、精神障害などにより判断能力が不十分になり、自分一人では契約や財産の管理などが難しい方を支援したいと考えております。

今後は町広報及びホームページ、金融機関、福祉、介護、医療機関窓口及び相談員、ケアマネ、各地区民生児童委員に周知し、必要な方に利用していただけるよう普及し、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう支援したいと存じます。また、制度を担う受皿として、町社会福祉協議会にも法人後見の必要性を伝え、協力していただく予定でございます。

以上です。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 高齢化が進み、独居化しつつある中で、特殊詐欺事案での予防

を含めた制度の利用促進をしたほうがいいのではないかなと思っております。
それらについての予算措置等はございますか。

○議長 佐藤博 総務課長

○総務課長 岡野均 お答えいたします。

高齢者の特殊詐欺対策としましては、まず福祉課では、独り暮らしの高齢者へ緊急通報装置をご案内をしております。装置としましては、着信から通話時に詐欺を防止する機能が相手方に伝わるという、その抑止をするものでございます。令和6年度の当初予算には220万2,000円を計上をさせていただきます。

次に、総務課のほうでは、同じく令和6年度より新しい事業になりますけれども、特殊詐欺被害防止対策機器購入費の補助金制度を設けてございます。これをまた新年度予算のほうに計上させていただきます。内容としましては、65歳以上の高齢者世帯に対して、家庭用の電話機に通話内容が録音される旨の警告の音声を発する機器を設置するものでございます。この機器の購入費用に対して補助する制度です。

対象となる機器でございますが、こちらについては富岡警察署があっせんする機器で、機器の代金は5,610円です。手続としましては、富岡警察署に機器購入の申込みをし、購入代金を支払っていただき、その領収書を町に持参していただきますと、支払ったうちの5,000円を町が補助するという制度でございます。令和6年度の当初予算には、200世帯分で100万円の予算を計上をさせていただきます。よろしくお願いします。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 役場の入った玄関のところに、成年後見人制度という立派な冊子があります。これ、私は初めて見て、読ませていただいたんですけども、高齢者になって、死ぬまで元気でピンピンコロリというのはみんな誰も望むところなんですけれども、そうもなかなか問屋は降ろさないというわけですし、元気なうちに、ある程度そういうしっかりしたうちに、こういう制度を登録するとかね。

あるいはこれ見ると、任意後見人制度というのがあるみたいです。本当に認知症になってしまうと贈与もできない、契約するのも大変なことになる、そういうことも割と知らないのではないかなと思うんですよね。それで子供も遠くにいて、あるいはなかなかその贈与が難しいと、そのまま放置されるといって、町にとってもなかなか、空き家はあるのに相続する人が決まっていなかったとかという問題が起きますので、ぜひ広報をよくしていただいて、あま

り今課長が述べたような難しいことを町民に言うのではなくて、認知症になってからは契約が大変だから、元気なうちに、こういう制度もあるからよく家族と相談して、登録するのも一つの手ですよということを広めていただけないかね、どうでしょうか。

○議長 佐藤博 福祉課長

○福祉課長 鈴木昌吾 議員のおっしゃるとおり、もう少し簡単な言葉で表現して、指示させていただきたいと思います。

○議長 佐藤博 岩崎正春君

○7番 岩崎正春 私は、下仁田町がこれだけ高齢化していくんですけれども、やっぱり亡くなる寸前まで下仁田町に住んでいてよかったなというのは、こういう一つ一つの施策を積み上げていくと、地道に積み上げて、下仁田町の職員優秀ですから、その辺はやっぱりよく考えてやっていただけたと思います。よろしくお願いします。

以上です。ありがとうございました。

○議長 佐藤博 以上で一般質問を終結いたします。

○議長 佐藤博 本日の日程は全部終了いたしましたので、これにて散会いたします。

大変お疲れさまでした。

なお、引き続きまして、11時20分から302委員会室において、全員協議会を開催いたします。議案書をお持ちの上、移動していただきますようお願いをいたします。

散 会 令和6年3月5日 午前11時07分